

## 特集 COVID-19 と脂質

## ▶ 特集にあたって

蔵野 信

東京大学医学部附属病院検査部副部長  
同 大学院医学系研究科病態診断医学講座臨床病態検査医学分野准教授

脂質は、微生物の増殖・感染、宿主側の免疫応答、宿主側の重症化などさまざまな点において、感染症の病態生理に関与しております。今までに先人たちの素晴らしいお仕事により、インフルエンザ、結核、HIV、肝炎ウイルスなど多くの感染症と脂質の関連が明らかになってきました。

さて、感染症の分野におきましては、何といたしまして SARS-CoV-2 による新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が喫緊の課題としてトピックスに上がっております。COVID-19 パンデミックは、医療のみならず、社会の構造変化をきたすほど大きな影響を与えており、多くの人にとってアンメットニーズが存在する疾患となっております。感染症・ウイルス学、免疫学の研究者、臨床医の英知により、ワクチンの開発、抗ウイルス薬の開発、炎症制御薬の臨床応用など光が差してきたところではありますが、ウイルス側も変異株の出現など「進化」しており、未曾有のパンデミックが続いております。この未曾有のパンデミックを乗り越えるため、さらには、何年後になるかわかりませんが、新たなパンデミックが出現したときに備えて、医学者、臨床医は、実臨床とともに、脂質学を含めてさまざまな分野の医学研究においてもその英知を結集する必要があります。

今回、「感染症と脂質」というテーマで特集を企画させ

ていただく機会をいただきましたが、このような状況に置きましては、脂質異常症の臨床医、脂質研究者としても、「COVID-19 と脂質」という題に絞って特集を企画させていただきました。もちろん、COVID-19 を取り巻く状況は刻々と変わってきています。この特集の企画のご依頼をいただいたときは、ワクチンが普及していない第3波でしたし、筆者の先生方に執筆のお願いをしたのは第5波が落ち着いた比較的平穏な時期でした。そして、この特集をまとめている今は、変異株による第6波が猛威を振るっております。そのため、時期尚早であるという批判は否定しませんが、本企画を通じて、われわれが取り組んできた「脂質学」が、人類が COVID-19 パンデミック、新たなパンデミックを乗り越えることに、少しでも貢献できることを願って、編集委員の先生方には無理を申し上げてご快諾いただきました。

まず、臨床分野については、COVID-19 の免疫、ワクチンについては、臨床医、研究者とにもよく知ることが、臨床および研究の着想に重要と考え、この分野に詳しい慶應義塾大学医学部の涌井昌俊先生に、一般的な獲得免疫の概要、COVID-19 の免疫応答の特徴、さらにはワクチンによる免疫応答についてまとめてもらいました。多くの本で取り上げられている液性免疫とともに細胞性免疫についてもその先端的な検査にも触れていただきつ